

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
固	コ かたい かたまる かためる 教4常①								
国	コク くに 教2状①								
國	人②								
圀	②								
圃	ホ はたけ 人①								
卷	ケン かこい 常①								
圈	人②								
園	エン その 教2常①								

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												固 現代中国
												国 現代中国
												圃 現代中国
												卷 現代中国
												園 現代中国

【国】「口」の中に「或」が正字体。中国の南北朝時代に「口+王」が見える。これは領土の中に王様がいらっしゃるというような、会意による字だろう。一方、「口+玉」は平安時代に見える。この「玉」は「或」の草書からできた字だろう。「口+八方」は則天文字。「或」の「口」は手書きでは「△」や「ム」の形

に書かれる。「口」は二つの点にくずすことがある。
【圃】甲骨では「口」のない字体。漱石は「田圃」、「田甫」の両方を書いている。
【園】「くさかんむり」がついた例が中国の南北朝時代、日本の上代、平安時代に見える。江戸時代には草書で「くさかん

むり」があり、「口」を省いた例がある。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期					
土	ド ト つち													
土	①	教1常①	甲骨	大孟鼎	郭店楚簡	説文篆文	馬王堆	禮器碑	十七帖	集字聖教序	元珍墓誌	等慈寺碑	干祿字書	法華義疏
土	③													
土	③													
圧	アツ おさえる													
圧	①	教5常①												
壓	②													
圭	ケイ たま													
圭	人①		甲骨	金文	郭店楚簡	説文篆文	居延漢簡	中岳嵩高靈廟碑				孔子廟堂碑	江戶五経	饗野指歸
在	ザイ あります													
在	教常①		甲骨	金文	睡虎地秦簡	説文篆文	馬王堆	禮器碑	十七帖	集字聖教序	張猛龍碑	九成宮	干祿・序	王勃詩序

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
伝嵯峨天皇	譚身往来	土0										干祿<通>
伝藤原行成	籍法地方大成											
藤原道長	礼容筆粹											
粘葉本朗詠												
安宅切												
色紙法華経巻	節用	土14										現代中国
												現代中国
粘葉本朗詠	節用	土3										現代中国
粘葉本朗詠	節用											

【土】点が付く例が多い。「土」には点のついた例が見えないので、点を付けることによって「土」と区別していたのかもしれない。点のついた「土」は干祿字書では<通>。日本の上代から平安には「土」の字体の「土」もある。
【圭】「王」のついた古文がある。五経文字では「王」のついた

字体を古文とはせず、正字体として扱っている。本来は「土+土」だが隸書以降は、「横線4本+縦線1本」の字体が出現する。
【在】説文に「从土才聲」つまり「(意味は)土に従い才の(音)」とされる字だが、甲骨や金文に「才」だけの字形がある

るので、「才」は音だけを表すものではなさそうだ。また、金文に「土」ではなく「土」と思われる字形がある。つまり、「才+土」の形声ではなく、「才+土」の会意の可能性もあると思う。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆家	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
坂	ハン さか	阪	阪	阪			坂	阪	坂
阪	ハン さか		阪	阪			阪	阪	
坊	ボウ ボツ へや まち		坊	坊			坊	坊	坊
堯	ギョウ たかい	堯	堯	堯			堯	堯	堯
堯	人①		堯	堯			堯	堯	堯
堯	人②		堯	堯			堯	堯	堯
坤	コン ひつじさる		坤	坤			坤	坤	坤
《	①		《	《			《	《	《
《	②		《	《			《	《	《
垂	スイ たらし たれる なんなんとする		垂	垂			垂	垂	垂
垂	教6常①		垂	垂			垂	垂	垂
垂	②		垂	垂			垂	垂	垂

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
坂	坂	坂	坂	坂	坂		坂	坂		坂	坂	坂
		阪	阪		阪		阪					坂
坊	坊	坊	坊	坊	坊		坊	坊	坊	坊		坊
堯	堯	堯					堯					堯
		堯										堯
坤	坤	坤	坤				坤					《
		《										《
垂	垂	垂	垂	垂	垂	垂	垂	垂		垂	垂	垂
		垂	垂		垂	垂	垂					垂
		垂	垂		垂	垂	垂					垂
		垂	垂		垂	垂	垂					垂

【坂】古代には「坂」と「阪」が両方あった。説文には「阪」しか掲載していない。干祿字書は「阪」を〈正〉、「坂」を〈通〉としている。康熙字典は「坂」と「阪」を別々に掲載し、異体字としての説明はない。我が国では「坂」が多く使われ、「阪」の使用例は少ない。

【坤】異体字「《」の来歴がよくわからない。干祿字書では「《」を〈通〉としている。「《」はJIS第二水準にあるが、「川」の異体字の扱いである。
【垂】康熙字典は「垂」を正字、「垂」を俗字としている。隸書以来、下部を「山」の形にする字体が一般的だが、五経文

字はその字体を〈訛〉とする。下部が「山」の形になる字は漱石も書いている。明治の漢字は「垂」を標準、「垂」を許容としているが、陸軍では「垂」を正体、「垂」を別体としている。漢字整理案の字体2と標準体はどこが異なるのかわからない。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
坦	タン たいら 人①		坦 包山楚簡	坦 説文篆文			坦坦 北史魏碑墓誌 章瑱墓誌		
坪	へい つぼ 常①	坪 金文	坪 金文	坪 説文篆文					
			坪 金文						
			坪 包山楚簡						
垣	エン かき 常①		垣 金文	垣垣 説文篆文 馬王堆 史晨後碑			垣垣 元孟輝墓誌 泉男生墓誌		垣 王勃詩序
			垣 睡虎地秦簡	垣 説文籀文	垣垣 馬王堆 西嶺畢山廟碑		垣 李氏墓誌		
						垣 居延漢簡			
型	ケイ かた 教4常①		型 金文	型 郭店楚簡 説文篆文					
			型 金文	型 上海楚竹書					
			型 金文	型 長沙子暉碑陰					
			型 長沙子暉碑陰						
垢	コウ ク あか ①			垢 説文篆文	垢垢 龍龕父龍作形記 智永千字文		垢垢 隄福寺碑		垢 龍龕父龍作形記
									垢 石堂神一龍山碑文
									垢 中阿含經

平安中期 から 室町	江戸版本 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
	垣 節用	坦 土5	坦			坦					坦 現代中国
	坪 算法地方大成	坪 土5	坪坪坪			坪坪		坪	×		坪 現代中国
	坪 算法地方大成										
垣	垣 元暦萬葉① 算法地方大成	垣 土6	垣垣垣			垣					垣 現代中国
		垣 古文	垣								
型	型 説文篆文	型 土6	型型型			型型		型型			型 現代中国
		型 古文									
垢	垢 平清盛願文 節用	垢 土6	垢垢垢			垢		垢			垢 現代中国